

## 東京大学名誉教授称号授与伝達式

平成11年5月19日付けで次の方々に東京大学名誉教授の称号が授与されました。

- ◎ 伊原康隆 (数学) 京都大学数理解析研究所 教授
- ◎ 小林俊一 (物理学) 理化学研究所 理事長
- ◎ 尾崎洋二 (天文学) 長崎大学教育学部 教授
- ◎ 矢崎紘一 (物理学) 東京女子大学文理学部 教授
- ◎ 堀田凱樹 (物理学) 国立遺伝学研究所 所長

6月9日(水)に研究科長室において、東京大学名誉教授の称号を授与された上記の先生方(伊原・尾崎・堀田の3氏は都合によりご欠席)をお招きし、伝達式が行われました。

式終了後には上野東天紅に場所を移し、先生方を囲み、小間研究科長、濱野、釜江両評議員、事務長、両補佐が出席し懇談会が催され、それぞれのご近況や思い出話などに和やかな一時を過ごしました。



## 高校生インターナショナル・サイエンス・スクール

夏休みに入って間もない7月22日から7月29日のあいだ高校生インターナショナル・サイエンス・スクールが開かれた。このサイエンス・スクールは財団法人日本国際教育協会の主催によるもので、アジア太平洋地域諸国の高校生を招き、我が国の高校生とともに物理学分野と生物学分野の最先端の研究の現状を理解させること、および各国の高校生達が交流を深めることにより、日本とアジア太平洋諸国間の相互理解と友好親善の促進に寄与することを目的としている。この計画は平成6年度から始まり、最初の3年間は物理学については高エネルギー物理学研究所、生物学については岡崎国立共同研究機構で行われた。平成9年度からの3年間は物理学は引き続き高エネルギー加速器研究機構（旧高エネルギー物理学研究所）が担当し、生物学は東京大学大学院理学系研究科が担当することになった。実施したプログラム名は「生物科学プログラム」で、今年度が3年計画の最終年度に当たる。

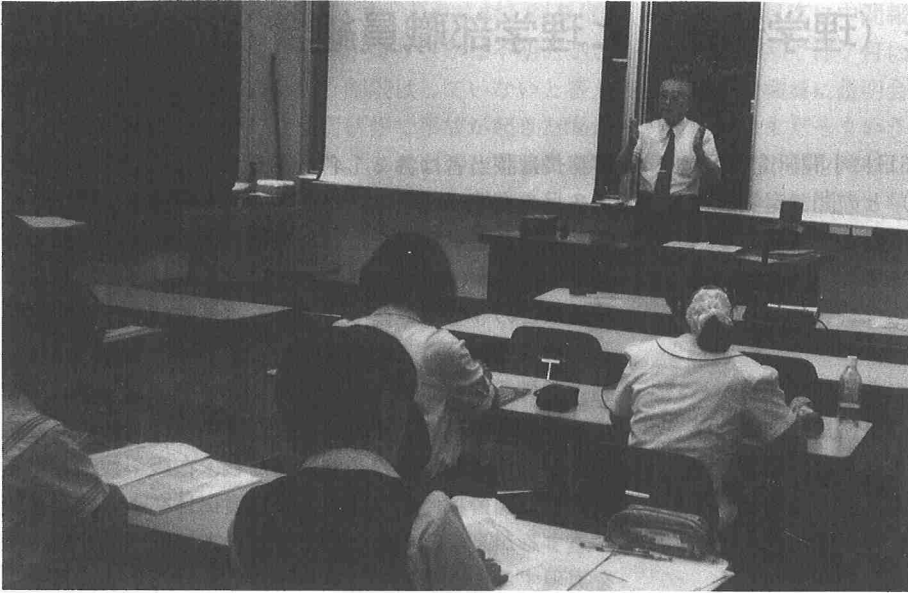
今回は、インドネシア、オーストラリア、カナダ、韓国、シンガポール、タイ、中国、ニュージーランド、フィリピン、マレーシアから各1名、国内の11都道府県から各1名、合計21名の高校生が参加した。講義と実習は、理学部2号館を中心に、理学系研究科附属植物園（日光分園）や国立科学博物館などで実施された。指導は主に生

物科学専攻の基幹講座および流動講座の教官が担当したが、農林水産省農業環境技術研究所の主任研究官にもご協力いただいた。23日からの講義・実習に先立って、22日に開校式が行われ、引き続き桃山学院大学の尾本恵市教授（本学名誉教授）による特別講演「Genetic Diversity of Human Populations in the Asian Pacific Area」が行われた。

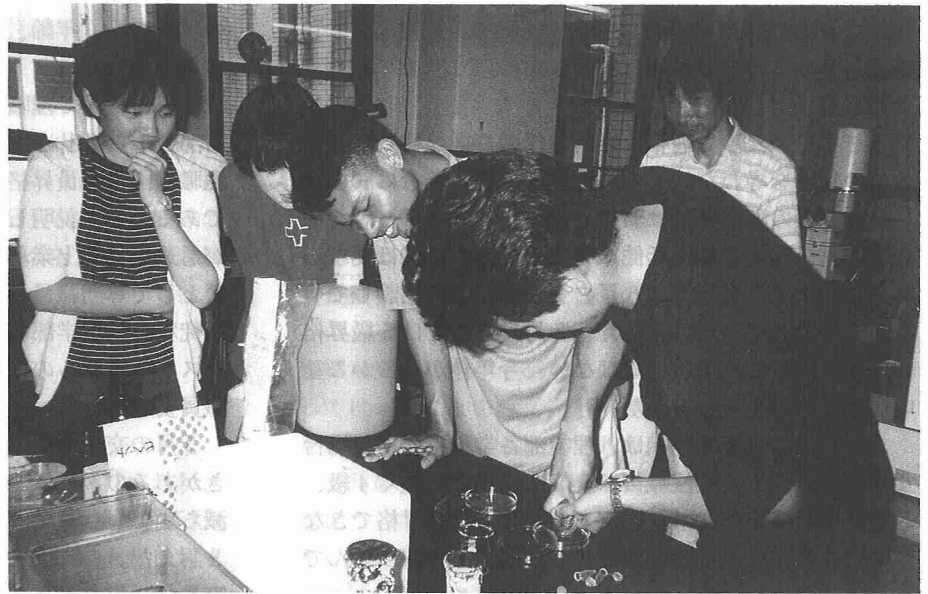
講義・実習には、植物細胞、植物個体、地衣類、ウニの鞭毛、メダカ、カエルなどが用いられ、遺伝子導入、形態観察、運動の観察、発生や分化に関する実験・観察、更には日光における生物の多様性に関する野外実習などが実施された。また、分類学や進化の理論に関する講義なども行われ、極めて盛り沢山のプログラムとなった。写真はそれぞれ特別講演、カエルの発生の実習、分岐分類学の講義の1コマで、高校生達が熱心に講義に聞き入り、実験を楽しんでいる様子が窺える。高校生が短時間で理解するにはかなりきつい内容だったが、生物とその科学の多様性と面白さは感じてもらえたと思う。また、参加各国の高校生達が和気藹々と協力しあって実験を行っており、各国の相互理解と友好親善の促進にも貢献できたと考えている。

近藤 矩朗（生物科学専攻）





特別講演



カエルの実習



分岐分類学の講義

## 理学系研究科長（理学部長）と理学部職員組合との交渉

1999年5月24日、6月21日、7月26日に小間研究科長、植田事務長と理学部職員組合（理職）との間で定例研究科長交渉が行われた。主な内容は以下のとおりである。

### 1. 昇級・昇格等

5月の交渉で理職は今年度4、5、6級の文部省から各大学への定数配分の状況を探ねた。事務長は未確認なので本部へ問い合わせると答えた。また6月の交渉で理職は今年度5、6級昇格者について本部から通知があったかと探ねた。事務長は通知はまだないが通知され次第知らせると答えた。

5月の交渉で理職は6月末の勤勉手当配分比率を探ねた。これに対し事務長は通常60/100であり、最低4回は1回は70/100であると答えた。

#### 事務職員

5-7月の交渉で理職は事務主任の6級昇格要求についての動きを探ねた。この事務主任の係長発令は50歳、しかし5級の辞令交付は54歳で在級年数は4年と短く不利であり、56歳で昇級延伸になるので特に理職は要求した。これに対し事務長は6月の交渉で本部に相談しているが実現できていないと答え、7月の交渉では5級昇格の発令と同時に来るわけではない、今年枠がくるかこないかは不明であると答えた。

また5月の交渉で理職は、理学部各学科事務室の場合女性職員が多く、女性職員は全般的に昇格が遅く4級、5級発令が高年齢であり、ポストがない限り昇格できないので女性職員の昇格についてぜひ理学部で取り組んで欲しいと要求した。

5月の交渉で理職は事務職員の専門職要求について動きがあったかと探ねた。これに対し事務長は特に動きがなく情報を得ていないと答えた。

#### 技術職員

5、6月の交渉で理職は4名の5級昇格者についてぜひ実現して欲しいと要求した。特に5月の交渉では、1人は在級年数が不足しているが年齢が高い場合は考慮される筈、また1人はS63年に技官になっているにも関わらず4級発令は平5年で結果昇格が遅れていること、1人は同職種者が全員行（一）中、1人だけ行（二）で採用された為、機械加工関連の資格があるにも関わらず現在の年齢からみる号俸は非常に低いということを訴えた。事務長は本部へ出向き相談していると答えた。

6月の交渉で理職は技術専門職員5、6級昇格者は今年度から東大で決定することになった為、部局間で不均衡がでないよう配慮してほしいと訴えた。また4月1日付け技術専門職4級と技術専門官6級の発令人数を探ね、

事務長は該当者は各々1名と答えた。

7月の交渉で理職は7月に3名の5級昇格が実現したことに謝意を示し、昇格した在級年数、年齢、号俸の3基準で推薦順位を決めることを確認した。これに対し事務長はこの3基準で行っていると答えた。

#### 図書職員

5-7月の交渉で理職は行（二）から行（一）に振替になり、年齢と号俸の条件は満たし、在級年数が5年を経過した図書職員について、来年度には在級年数が基準に達するが高年齢であるので、ぜひ本年度中の5級昇格を実現するよう重ねて要求した。これに対し事務長は7月の交渉で、東大全体の枠の問題であり今年度昇格の可能性が皆無ではないと答えた。また理職は6月の交渉で今年度在級、年齢、号俸の3基準を満たす職員の5級昇格を要望した。

5月の交渉で理職は、本部人事課との勉強会に東職図書部会から提出した資料を研究科長・事務長に手交した。理職は図書職員昇格改善要求についてまとめられた資料であることを説明し、図書業務の機械化・情報化の進行が急速である上業務量は増加する為、図書職員の待遇改善として専門職員化が必要であると訴えた。これに対し研究科長は理学部各専攻図書室員の専門性を取り上げてポスト要求するのは難しい、今後電子図書館関連の専門職員要求はし易いだろうと答えた。

5月の交渉で理職は、図書の組織化についてその後動きがあるのかどうかを探ね、現状で組織化しても定員を減らすというマイナスにしか働かないという危惧があると訴えた。これに対し研究科長は特に動きはなく、今後定員削減があると今の体制を維持していくのは難しいと述べた。

### 2. 研修旅費・研修費

#### 技術職員

6月の交渉で理職は、昨年12月に要望書を提出済の技官の研修旅費について会計委員会での検討結果を探ねた。これに対し研究科長は今まで委任経理金の利子でサポートしていたが、財源がなくなった為今年度から教官の旅費の一部を留保する、あるいは委任経理金の一部を留保するという方法で充てると答えた。また科長は6月の教授会で委任経理金の1%を共通経費として出すことを了解を得た、しかし希望額を出すのはかなり難しいと答えた。

7月の交渉で理職はどの程度の予算枠になりそうかを探ねた。これに対し科長は助手に対する旅費と同様に職員の人数で総額を計算したところ今年度技官は78万円程度で希望の4分の3程度であると答えた。また理職は旅費の総額は7月に分かるが、4-6月に研修に行きた

い場合はどうすればよいかを尋ねた。これに対し科長は、今後当該年度に前年度並の予算が降りるかは不明だがこの期間の研修ができないという制限はしていないと答えた。理職は年休を取得した私費研修で事故が起きた場合公務災害にならないと発言した。これに対し事務長は制度上私費での研修は公務と認められないので公務災害とならない、また科長はこれは問題であると答えた。

#### 図書職員

5月の交渉で理職は図書職員の研修費と研修旅費について昨年に続き今年も予算要求し、要望は図書委員長から会計委員長に文書で提出したので回答も会計委員長から図書委員長宛に文書でもらいたいと要望した。これに対し研究科長は承知したと答えた。また理職が研修旅費検討の今後の予定について尋ねたところ、科長は6月の会計委員会で配分方針を決定し、7月の教授会で具体的に金額を決定する、図書職員の研修旅費も会計委員会の議題となるよう留意しておくことと答えた。6月の交渉で理職は今年度研修費と研修旅費の検討結果を尋ねた。研究科長は研修旅費の財源は技官と同様であり、予算額は希望の20%程度になるだろうと答えた。また科長は研修費は前年度マニュアルの作成等有効活用されており昨年度並に支出したいと答えた。7月の交渉で理職は研修旅費と研修費の予算額を尋ねた。研究科長は校費枠の研修費は昨年並に出せるが、研修旅費は技官同様の計算で算出したところ20万円代となり、希望どおりではないと答えた。

### 3. 独立行政法人化

5月の交渉で理職は定員削減の上待遇改善はされず、非常勤職員の指導等仕事も増加し困窮する現状を訴えた。これに対し研究科長は2003年には独立行政法人化に対する最終結論を出さねばならず、個々の矛盾を解消する努力も必要だが、組織そのものの変革期であると答えた。

6月の交渉で理職は独立行政法人化検討のスケジュールと状況を尋ねた。これに対し科長は提出の場合平13年度概算要求事項で、今は移行する場合としない場合のシュミレーションを将来計画検討委員会で検討中であり、大学の特徴を個別法に盛り込めるか否かも検討していると答えた。理職は東大が法人化する場合、移行する組織単位はどう考えられているのかを尋ね、科長は東大全体で法人化するか否かの対応を決めたいと総長が発言している、また法人化は独立採算性と一体ではないと答えた。

7月の交渉で理職は6月の国大協総会で法人化について議論があったか、また他に新たな情報はあるかと尋ねた。これに対し科長は学部長会議で国大協総会について報告があり、早急に検討を始めることになった、総長の元に4テーマの検討会(1.理想的な組織を議論、2.大学組織として国立と法人のどちらがベターかを議論、3.個別法に盛り込まれる内容を検討、4.国立、法人化以外の第三の道を検討)が設置され、今年中に全体の結論を出

し、10月迄に中間報告を出す予定であると答えた。理職は理学系では7月に教官の検討会の場を持つそうだが助手及び職員に説明会などを持つ予定があるかと尋ねた。科長はまだそういう状況になく法人化の検討が進んだら何らかの場を持ちたいと答えた。理職は再度法人化移行の際の組織単位を尋ね、科長は全く未定であると答えた。理職は各大学で独立行政法人化した場合、職員の異動希望が通りにくくなる危惧を訴えた。科長は運用上異動ができるよう考慮する必要があると答えた。理職は理学系教授会として独立行政法人化への反対声明は出さないと尋ねた。科長は国に残っても十分定員がつく訳でなく、即反対という風に意見はまとまらないと答えた。

### 4. その他

5月の交渉で理職はセクハラ相談担当者を各専攻に設置する事の概要説明を求めた。事務長は人事院規則に対応し各専攻毎に男性の専攻長と女性の事務室職員を相談員とし、相談依頼があった際には人事掛長に相談してほしいと答えた。理職は第三者が相談員となるべき、相談員の研修も必要であると訴えた。これに対し科長は東大で検討を重ねた結果ではなく今後別の体制に変わる可能性はあると答えた。

5月の交渉で理職は田無にある原子核科学研究センター移転についての状況と職員の扱いを尋ねた。これに対し科長はサイクロトン利用設備のある理研に原子核の分室ができる予定で、職員は公務員のままで働くと回答した。理職は調整手当が下がるなどの不利益がでないよう考慮してほしいことを訴え、事務長は処遇が同じでないようなら要求していくつもりであると答えた。

6月の交渉で理職は『新領域創成科学研究科関連の業務について』という文書を同月研究科長に手交したが、その後の対応と状況について尋ねた。科長は事務長から新領域事務部に連絡してもらった、新領域の図書業務については新領域研究交流掛長、理学系図書掛長と連絡を取りつつ問題点を話し合っしてほしいと答えた。また旧専攻で新領域所属者が利用したコピー代金については移算で負担してもらおう予定であると答えた。理職は新領域側で主体的に図書業務について検討せよと文書で要求したことを言及したが、科長は新領域事務部では具体的に図書業務の内容がわからない故、して欲しい仕事は具体的に提示する必要があると答えた。

6月の交渉で理職は『理学部職員組合書記局整備に関する要望書』を手交し書記局整備を訴えた。事務長は検討して可能なことは行いたいと答えた。

6月の交渉で理職は文部省共済で団体終身保険を取り扱う東邦生命倒産についてその後の対応を尋ねた。事務長は給与掛に問い合わせると回答すると答えた。

6月の交渉で理職は理学系としてコンピュータ2000年問題にどう対応するのかを尋ねた。科長は職員の個別対応の必要があり、ネットワーク担当教官に相談しつつ進めていくと答えた。

## 人事異動報告

### (講師以上)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
鉱物	教授	村上 隆	11. 6.16	昇任	助教授より
地惑	〃	ゲラー・ロバート・ジェームス	11. 7. 1	〃	〃
化学	助教授	市川 淳士	〃	転任	九州工業大学より
生科	講師	近藤 修	〃	昇任	東北大学助手より
スペクトル	教授	小林 昭子	11. 7.16	〃	化学専攻助教授より
物理	〃	駒宮 幸男	11. 8. 1	配置換	素粒子物理国際研究センターより
地質	〃	島崎 英彦	11. 8.31	辞職	

### (助手)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
生科	助手	高野 博嘉	11. 6. 1	昇任	熊本大学講師へ
〃	〃	黒岩 晴子	〃	採用	
化学	〃	田中 健太郎	〃	転任	岡崎国立共同研究機構より
ビッグバン	〃	山田 章一	〃	配置換	物理学専攻より
物理	〃	河野 浩	11. 6.16	昇任	大阪大学助教授へ
生科	〃	東山 哲也	〃	採用	
スペクトル	〃	雨宮 健太	〃	〃	
物理	〃	石山 英二	11. 6.30	辞職	
鉱物	〃	海田 博司	11. 7. 1	転任	東北大学へ
生科	〃	敷藤 由美子	〃	採用	
物理	〃	河邊 径太	11. 7. 5	研究休職	11.7.5~12.7.4
地理	〃	江崎 雄治	11. 8. 1	転任	国立社会保障・人口問題研究所へ
物理	〃	安東 正樹	〃	採用	
化学	〃	山垣 亮	〃	〃	
物理	〃	小林 研介	11. 8.16	配置換	物性研究所へ

### (職員)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
化学	事務官	渡辺 涼子	11. 8. 1	配置換	総務部人事課 (文化庁 (併))

## 博士（理学）学位授与者

平成11年4月12日付学位授与者（5名）

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	化 学	堀 本 訓 子	液体分子線による溶液中および溶液表面分子のレーザー誘起過程
論文博士	〃	磯 部 寛 之	核酸結合性有機官能基化フラーレンの合成とその機能
〃	〃	前 山 勝 也	タングステン(0)カルボニル錯体を触媒とする末端アセチレン化合物の分子内環化反応
〃	〃	久保田 岳 志	L-Edge XANES による担持金属微粒子上の吸着水素に関する研究
〃	鉱物学	吉 川 彰	マイクロ引き下げ( $\mu$ -PD)法の高圧への適用—高融点物質(YAG/Sapphire共結晶、 $Tb_3Al_5O_{12}$ 単結晶、 $Nd^{3+}$ :YAG, $Yb^{3+}$ :YAG単結晶)ファイバー結晶の融液成長—

平成11年5月17日付学位授与者（3名）

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	天文学	津 川 元 彦	近接連星系における降着円盤爆発現象の論理的研究
論文博士	物理学	中 山 知 信	シリコン表面上の単原子・単分子層ヘテロ膜の成長と欠陥導入機構の実空間顕微法による研究
〃	化 学	小 林 かおり	含窒素短寿命分子マイクロ波分光

平成11年6月14日付学位授与者（4名）

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	情報科学	関 口 龍 郎	モバイル言語システムに関する研究
〃	生物化学	大 町 美津枝	孵化後の生長に必要なとされる線虫 kel-1 遺伝子の単離と解析
論文博士	物理学	石 坂 智	アンチドット格子における電子輸送
〃	地球惑星物理学	露 木 義	降水量データを用いた熱帯大気の4次元変分法によるデータ同化

平成11年7月12日付学位授与者（3名）

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	情報科学	有 田 正 規	代謝系の再構築：理論と実験
〃	地質学	モウ キョートウ	日本海大和海盆の地震学的層序掘削試料、孔内計測、反射法地震波探査データの総合的解釈
論文博士	地球惑星物理学	道 田 豊	船舶搭載型ADCPデータの解析による黒潮及び表層エクマン層の構造

平成11年7月31日付学位授与者（1名）

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	物理学	吉 田 恭	発達した乱流における速度循環の統計法則についての研究